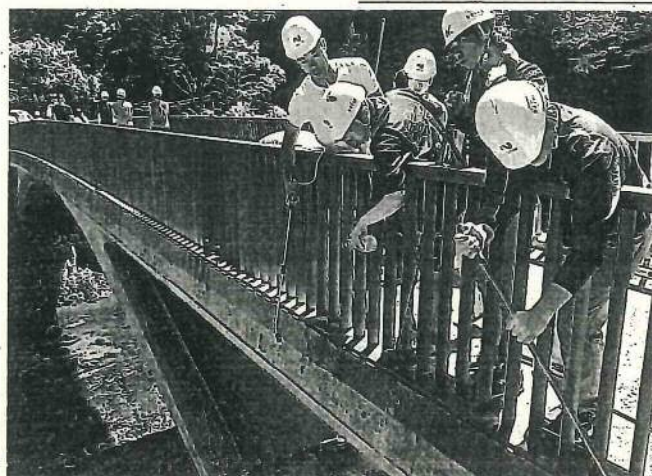


滝見橋清掃、経年調査も

富士宮・白糸ノ滝 日大生がプロジェクト

富士山
つなぐ世界遺産

富士宮市の世界遺産
富士山構成資産・白糸
ノ滝付近に架かる滝見
橋でこのほど、日大理
工学部の3、4年生と
大学院生24人が「橋守
プロジェクト」を実施



橋の清掃に取り組む学生ら＝富士宮市の白糸ノ滝

した。絶えず水しぶき
を浴びる橋に付着した
コケを清掃するとも
に、一部は残して経年
調査につなげる。
2013年に開通し
た同橋は滝の景観に配
慮して設計され、14年

8/8 静岡新聞

にはグッドデザイン
賞を受賞するなど高い
評価を受けている。プ
ロジェクトは今年で
3年目。橋の基本設計
から関わる同学部土
木工学科の関文夫教授
が企画監修する。全国
でも珍しい滝の直近
に位置する構造物の汚
れの付き方を調査し、
保全管理に役立てる狙
い。

学生たちは清掃前の
状態を確かめた後、ブ
ラシなどを使ってコケ
をこすり落とした。関
教授によると、滝に面
した北側に汚れの付着
量が多い傾向が見られ
るといい、「今後数年
間は引き続きデータを
取り、橋の適切な管理
方法を模索したい」と
話した。

滝ノ糸白 滝見橋で清掃と調査 日大生が維持管理を研究

世界遺産富士山の構成資産の一つ富士宮市の白糸ノ滝でこのほど、日本大理工学部土木工学科構造・デザイン研

究室による「橋守（はしもり）プロジェクト」が行われた。同研究室の関文夫教授と25人の学生が滝つぼ内の滝見



橋のコンクリート部分や欄干の清掃に励む

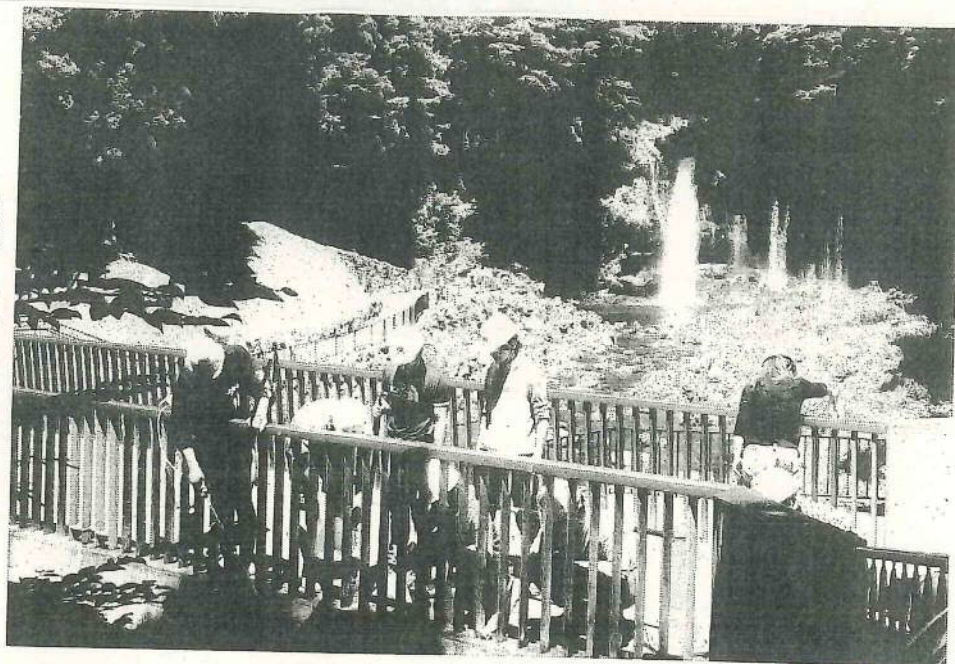
橋の清掃に励み、土木構造物の維持管理に関する研究に役立てた。滝見橋は、流れ落ちる水を目前にした展望スポットで、市が構成資産整備のために架け替え、平成25年12月に完成した。その後、周囲の自然景観と調和した優れた構造や造形が高い評価を得て、グッドデザイン賞やPC工学会作品賞、JCI作品賞などを獲得した。関教授は基本設計から携わり、機能性や快適性の高い土木構造物に関する研究のモデルケースとして滝見橋を活用するため、同プロジェクトを立ち上げた。清掃は一昨年からは

めて3回目。滝からの水しぶきの影響で、橋のコンクリート部分やアルミの欄干に、汚れやこけが見られるようになったため、清掃によって完成時の状態を保つと同時に、将来にわたって橋をきれいに維持管理するための各種調査を実施している。清掃では、学生たち

がブラシやタワシを使い、こけや泥汚れなどを熱心に洗い流した。調査では写真撮影で現状を確認し、明度測定器で汚れの度合いを調べたほか、前回あえて清掃しなかった部分で、清掃の有無による変化を比較するなど、多くのデータを収集した。関教授は「この橋は、

構造的に汚れにくいように設計したが、経年変化は避けられない。汚れ対策は清掃する以外にも、日本的な風情が感じられるように誘導する方法があるので、さらに清掃を継続しながらデータを収集し、今後の方策を考えたい」と話していた。

第3回「橋守プロジェクト」日本大学理工学部土木工
滝見橋 学科生徒有志23人が清掃



実験データをとりながら

実験とし汚れ落しによるコケ胞子付着

白糸ノ滝滝見橋周辺では9日、白糸ノ滝整備委員会委員の関文夫日本大学理工学部土木工学科教授と同科生徒有志による滝見橋「橋守プロジェクト」が行なわれた。平成25年12月に開通した同橋は開通から3年が経過し、毎日水しぶきを浴びるためにコケの胞子や菌類が付着して汚れが広がりやすい状況にある。

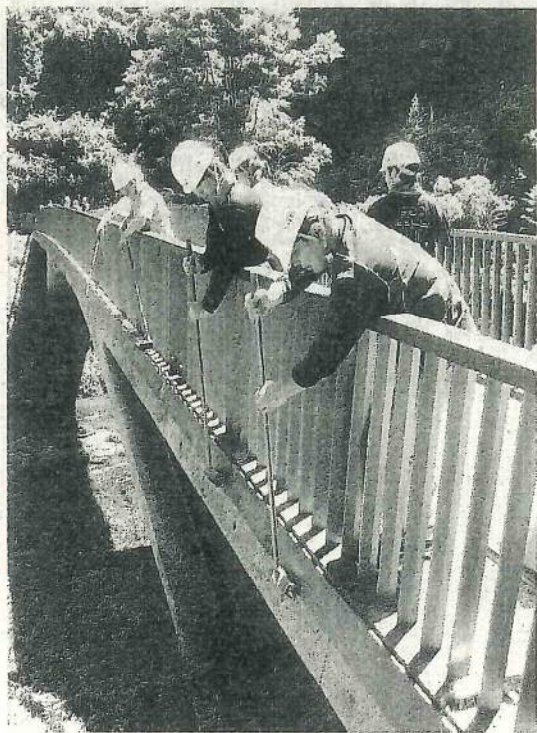
市および関教授はじめ同科生徒らは橋をきれいに保ち、来訪者に気持ちよく滞在してもらうために橋守プロジェクトを実施、今回で3回目を数える。関教授は同橋の基本設計から関わった同滝整備委員会委員で、同橋の細部にわたって知り尽くしている。同日は、同科生徒有志と23人で汚れをブラシなどでこすって落とす作業を行なった。

橋に付着する汚れは滝側と南側とは異なるが、冬になると菌類が死んで雨などに流されるため、そんなにも汚れることがないということがわかったという。

関教授は「昨年5月から同プロジェクトを開始し、昨年8月にはデータ収集を行なって、汚れやすい部分では9年分の汚れが1年で付くというデータ結果を分析。さらに清掃後は7年分の汚れが1年で付く程度となり、あまり汚れが目立たなくなったという結果を導き出している。」

関教授は「清掃すればただけ、汚れが付きにくくなることも確かです。今後、清掃後の汚れ付着程度を確かめ、何年に一度実施するのかが決め手地元と協力しながら橋をきれいに保ちたい」と語った。

学生らはブラシなどで橋の高欄や親柱などをみがき、水で洗い流す作業を実施していた。



世界遺産・滝見橋の汚れ具合改善

8/10 読者朝日

日大理工学部
土木工学科

学生が清掃奉仕に汗

日本大学理工学部土（橋長39m）の汚れ具年の清掃時と比べ、汚木工学科の学生24人が合の調査を兼ねた清掃れ具合はかなり改善しているという。

同橋は2013年に開通。扁平（へんぺい）バランスドアーチ式と呼ばれる構造で、雨水などで汚れが落ちやすいように工夫されており、景観とマッチしたデザインは、16年度土木学会デザイン賞最優秀賞作品にも選定されている。

調査を兼ねた清掃奉

滝見橋の汚れを落とす学生

仕は3年前から行われしており、同日は同橋の基本設計を担当した同大学の関文夫教授も訪れ、橋の汚れ具合などを調べた。

同橋は滝の水しぶきをまともに受ける位置にあり、周囲の植物の胞子などが付着し、菌が増えやすい環境下にあるという。特に太陽光にさらされること、少ない北側の汚れがひどく、通常の橋と比べ、1年で9年分ほどの汚れが付着するという。このため、調査を兼ねた年1回の清掃で汚れの進行具合を調べ、今後の橋の管理に役立てる狙いがある。

同日、橋の汚れ具合を視察した関教授は「昨年の清掃効果で汚

れ具合は4年分ぐらいアルミ製の高欄やコンクリート製の親柱などに減少している。あと2〜3年のデータを取れば、汚れ具合の特徴が把握できるかもしれない」と話した。

同大学生による調査は北側の一部を除き、後の同橋の美化活動も課題になってくる。